

第 5 回 IEEJ/APERC 国際エネルギーシンポジウム 開催のご案内

－ ポストコロナのエネルギー・トリレンマ：技術革新とソフトパワーは解決策となるのか？ －

平素より大変お世話になっております。

Covid-19 パンデミックの長期化・深刻化を受けて、エネルギー・環境に係る情勢はますます混迷を深めています。パリ協定の理念である 2 度目標（今世紀後半での世界の温室効果ガス排出ネットゼロ）は、欧州が牽引する形で、より野心的な 1.5 度目標（2050 年ネットゼロ）へと変貌しつつあります。対照的に、今後見込まれる経済成長に伴う温室効果ガス排出増が不可避な新興国は、その大半が長期的な排出削減への道筋を描けておらず、世界大の 2050 年ネットゼロ実現は極めて不透明です。

長期にわたり世界全体でエネルギーの脱炭素化を進めるためには、再生可能エネルギーや原子力といった非化石エネルギーの普及促進では足りず、化石燃料の脱炭素化をはじめとした革新的なイノベーションの確立が不可欠となります。

また、足下でのエネルギーの大幅な供給過剰と価格低下が向かい風となって、中東情勢は依然として不安定に陥ったままであり、国際エネルギー市場はことあるごとに揺さぶられ、エネルギー安全保障も脆弱な状態です。

- 2050 年までに、エネルギーのゼロエミッション達成は可能か？
- 化石燃料は、気候変動の敵か、味方か？
- 中東の安定化に貢献するのは、ハードパワーか、ソフトパワーか？

そこで、弊所は、一般財団法人アジア太平洋エネルギー研究センター(APERC)と合同で、昨年に引き続き、国際シンポジウムを共催し、こういった課題について議論いたします。本シンポジウムでは、3 つのセッションを設け、海外の専門家（弊所の特別客員研究員等）を招聘し、弊所の研究者とともに、講演とパネルディスカッションを行い、質疑応答も予定しております（日英同時通訳付き）。加えて、経済産業省資源エネルギー庁長官による特別講演も設けます。皆様のご参加をお待ちしております。

記

1. 日時：2020 年 9 月 18 日（金）9:00-10:25 および 15:00-18:20（日本標準時（JST））
09:00-10:25 開会挨拶、セッション 1
15:00-18:20 セッション 2、特別講演、セッション 3、閉会挨拶
※海外各地の専門家との時差を勘案し、このような 2 部構成としております。
2. 開催方法：オンライン形式（ソフト：Zoom）
3. テーマ：「ポストコロナのエネルギー・トリレンマ：技術革新とソフトパワーは解決策となるのか？」
4. 内容：次ページのとおり
5. 使用言語：日本語 / 英語（同時通訳付き）
6. 参加対象：賛助会員
7. 参加費：無料
8. 申込方法：下記 URL より、ご登録をお願いいたします。
<http://eneken.ieej.or.jp/seminar/event_login.php>
締切・・・2020 年 9 月 11 日（金）※ 定員を超えた場合は締め切り前でも募集を打ち切らせていただく場合がございます。

お問い合わせ先：一般財団法人日本エネルギー経済研究所 企画事業ユニット総合企画グループ
TEL 03-5547-0211 FAX 03-5547-0223 Email: ieej-mail@tky.ieej.or.jp

プログラム (日本標準時) * 当研究所の特別客員研究員

9:00-9:10	開会 挨拶	(一財) 日本エネルギー経済研究所 理事長 豊田 正和
9:10-10:25	講演 9:10-9:40 パネル ディスカッション 9:40-10:25	<p>セッション 1 2050年までに、エネルギーのゼロエミッション達成は可能か？ ～再生可能エネルギーと原子力、省エネの役割～</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ CO2削減の主力と期待される非化石エネルギー技術等（再エネ・原子力・省エネ）の役割ならびに可能性と限界について、どう見るべきか？ ➢ 2050年までに、エネルギーのゼロエミッション達成は可能か？ <p>司会 (一財) 日本エネルギー経済研究所 常務理事 山下 ゆかり</p> <p>講演・パネリスト 米 コロラド大学環境学部 教授 ロジャー・ピールキ* 米 ライス大学ベーカー研究所 シニアダイレクター ケン・メドロック* 米 原子力エネルギー協会 (NEI) 副会長 ジョン・コテック</p>
15:00-16:15	講演 15:00-15:40 パネル ディスカッション 15:40-16:15	<p>セッション 2 化石燃料は、気候変動対策の敵か、味方か？</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ CO2大幅削減に有効と期待される、化石燃料の脱炭素化に向けた革新的なイノベーション技術に対する見方や考え方、戦略はどうあるべきか？ ➢ 化石燃料は、気候変動対策の敵か、味方か？ <p>司会 (一財) 日本エネルギー経済研究所 理事 工藤 拓毅</p> <p>講演・パネリスト 経済産業省資源エネルギー庁 次長 兼 首席エネルギー・環境・イノベーション政策統括調整官 飯田 祐二 「革新的環境イノベーション戦略」 アブドラ国王石油調査研究センター (KAPSARC) シニア G20 アドバイザー エリック・ウィリアムズ 国際エネルギー機関 (IEA) 持続可能性・技術・見通し局長 メクチルド・ヴェルドルファー 蘭 シェル・インターナショナル 首席エネルギーアドバイザー ウイム・トーマス*</p>
16:15-16:45	特別講演	エネルギー政策の現状について 経済産業省資源エネルギー庁 長官 保坂 伸
16:45-16:55	休憩	
16:55-18:10	講演 16:55-17:25 パネル ディスカッション 17:25-18:10	<p>セッション 3 中東の安定化に貢献するのは、ハードパワーか、ソフトパワーか？ ～日本のソフトパワーの役割は？～</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ パンデミックは、中東の安定にどのような影響を与えたか、与え続けるのか？ ➢ 国際エネルギー市場、ひいては中東地域の安定化において、関係各国・機関（米国・ロシア・中国等）に期待される役割とは？そして、日本はどのような役割を果たせるか？ ➢ 中東の安定化に貢献するのは、ハードパワーか、ソフトパワーか？ <p>司会 (一財) 日本エネルギー経済研究所 専務理事 首席研究員 小山 堅</p> <p>講演・パネリスト 英 王立国際問題研究所 特別上席フェロー ポール・スティーブンス* 露 スコルコボ・ビジネススクール エネルギーセンター所長 タチアナ・ミトロバ* (公財) 笹川平和財団 顧問 田中 伸男*</p>
18:10-18:20	閉会 挨拶	(一財) アジア太平洋エネルギー研究センター 代表理事・所長 入江 一友

※ プログラムは変更となる可能性がございます。変更があった場合はホームページ上でご案内を差し上げます。